

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：13801

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K14235

研究課題名(和文)非認知的能力を開発する「共創空間プログラム」の系統化・実装化に関する研究

研究課題名(英文) Research on systematization and implementation of "co-creation space program" to develop non-cognitive abilities

研究代表者

川原崎 知洋 (Kawarasaki, Tomohiro)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：10512535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：造形活動と空間とを包括的にデザインした環境を「共創空間プログラム」として構想した。これまでに実践した共創空間プログラムについて「子どもに提供した体験価値」を基に類型化した。その結果、「表現の集積が1つの作品となる現実空間」、「表現の集積が意味を持つ情報となる現実空間」、「他者の行動から自分との共通点・相違点を実感する現実空間」に分類された。また、共創空間での子どもの行動を観察した結果、子どもの獲得し得る能力として「自分と向き合う力」、「自分を高める力」、「他者とつながる力」であることが整理され、共創空間での造形体験は幼少期の子どもの非認知的能力の向上に寄与する可能性が展望された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

数値化することのできない非認知的能力の獲得について、共創空間での子どもの行動を観察した結果、子どもの獲得し得る能力として「自分と向き合う力」、「自分を高める力」、「他者とつながる力」であることを見出すことができ、共創空間での造形体験は幼少期の子どもの非認知的能力の向上に寄与する可能性が展望された。また、未就学児を対象とした共創空間プログラムを構想する際、「表現の集積が1つの作品となる現実空間」、「表現の集積が意味を持つ情報となる現実空間」、「他者の行動から自分との共通点・相違点を実感する現実空間」の3つの型を基点に検討することが可能となる。

研究成果の概要(英文)：Co-creation spaces, which consider experience and space as one, were categorized into three types: "real spaces where an accumulation of expressions becomes a single work," "real spaces where an accumulation of expressions becomes meaningful information," and "real spaces where you can realize similarities and differences with yourself from the actions of others." In addition, the abilities that can be acquired in co-creation spaces were organized as "internal dialogue ability (ability to face oneself)," "self-development ability (ability to improve oneself)," and "collaboration ability with others (ability to connect with others)," and it was predicted that experiences in co-creation spaces may have an impact on improving the non-cognitive abilities of young children.

研究分野：教科教育学

キーワード：非認知的能力 共創空間プログラム デザイン

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 非認知的能力を開発する「共創空間プログラム」の系統化・実装化に関する研究

#### 1. 研究開始当初の背景

幼少期における非認知的能力の獲得とその後の認知的能力の伸長には相関関係があることが多数報告されており、国立教育政策研究所がまとめた『非認知的(社会情動的)能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書』の中で、非認知的能力は学習などによって獲得される知能とは異なる能力であることが明記されている。また、非認知的能力をスキルとして捉え、教育による伸長の必要性が強調されており、意識的に非認知能力を高めることが今後の幼児教育では極めて重要になることが指摘されている。ただし、非認知的能力の分類については各研究者の捉え方によって異なり、未だ明確に系統化されていないという課題もあげられる。そこで、本研究ではこれまでの造形活動の研究成果を鑑み、造形活動によって身に付けられる非認知的能力について、その関係性を明らかにしていく必要があるとの考えに至った。

#### 2. 研究の目的

本研究の目的は、「造形活動の内容」と「体験空間」とを包括的にデザインすることで、理論研究によって人・モノ・コトを有機的に結ぶ造形プログラムを構築し、実践研究を行うことで造形活動は非認知的能力を向上し得るのかについて明らかにすることにある。また、人・モノ・コトに「しかけ」を施すために意図的に組み合わせ、活動内容と活動空間を一体的にデザインした共創空間プログラムを開発することで、創造力や発想力、造形的技能力という従来育成してきた資質能力とともに、強調性や社会性、他者性といった非認知的能力の育成と、造形活動における非認知的能力の系統化が期待される。

#### 3. 研究の方法

本研究に関する国内外の文献を参照し、非認知的能力と造形活動に関する理論研究を推進しながら、非認知的能力と造形活動との接点や関係性について検討する。国内での主要な子ども関連施設で実施されている造形活動に関する調査を実施する。また、理論研究で得た知見を活かし、実践研究として共創空間プログラムを企画実施し、そこでの子どもの行動・発話などを記録する。最終的には系統化された非認知的能力に対応した共創空間プログラムを系統化した汎用モデルとして提示する。

#### 4. 研究成果

共創空間が子どもの非認知的能力に与える影響について明らかにするため、中山芳一の非認知能力の定義を端緒とし、類型化した共創空間において獲得し得る資質・能力について検討した。2013年～2022年までの間「グランシップこどものくに」において共創空間プログラムとして実践研究を行った。グランシップこどものくには子育て世代の家族を支援することを目的に、未就学児の子どもと親とで造形体験を楽しむイベントとして実施されている。イベント会場であるグランシップはJR東静岡駅に隣接した公共施設で大型駐車場も完備されており、多くの人々が集まりやすい環境が整っている。子どもの共創空間プログラムを構想するにあたり、子どもの発達段階を考慮した体験を提供すること、多くの来場者が見込まれるイベントの特徴を活かすこと、子どもの体験の質と幅を広げること、記憶に残る体験を提供することを考慮した。これまでに実践した共創空間プログラムを「子どもに提供した体験価値」をベースに類型化したところ、体験と空間を一体的に捉えた共創空間プログラムは「A:表現の集積が1つの作品となる現実空

間」,「B:表現の集積が意味を持つ情報となる現実空間」,「C:他者の行動から自分との共通点・相違点を実感する現実空間」の3つに分類された。(図1)

企画テーマ	スペース名称	子どもに提供した体験価値	A室	B室	A→Bへのつながり	表現素材	空間演出のために必要な特殊物品	共創の類型化	
2013	粘土	WHIP CLAY CAKE	・子どもたちの活動の集積が徐々に「大きなデコレーションケーキ」になっていく価値	造形体験	表現	○	粘土、水	ブラックライト、蛍光塗料	A
2014	動物	どうぶつをみんなでたすけよう	・子どもたちが展示した塗り絵の集積が意味や情報になる価値	造形体験	鑑賞	○	ぬり絵台紙、色鉛筆	どうぶつくじ	B
2015	海	どんな深海魚がイメージできる	・さまざまな形のシールが表現しようとするイメージのセントになる価値 ・子どもたちが描いた作品の集積が徐々に「非日常空間」になっていく価値	表現	鑑賞	○	台紙、シール 水性マーカー	回転、スポットライト	A
2016	色	まぜまぜいろいろラボ	・「色」に関連した異なる様々な体験ができる価値 ・子どもたちの創作した作品が展示並置され比較できる価値	鑑賞	造形体験	×	水性マーカー コピーフィルター	OHP	C
2017	色・かたち	へんてこ!道具のかたち	・子どもたちがへんてこ道具などのように使っているか、どのような反応をするか、まじりがない関わり合いから感じられる価値	造形体験	造形体験	×	—	へんてこな道具 (器・スプーン・机・イス)	C
2018	動き	Cooking Orchestra	・子どもたちが調理体験などのように使っているか、どのような反応をするか、まじりがない関わり合いから感じられる価値	鑑賞	造形体験	○	—	調理楽器 (8種類の調理器具×楽器)	C
2019	みらい	「み」「ら」「い」でつくろう	・この場でしか使うことのできないスタンプで創作する価値 ・子どもたちの創作した作品から自分とは異なる表現方法を感ぜられる価値 ・子どもたちの描いた作品の集積が徐々にこの空間で行う活動の情報になっていく価値 ・作品は展示集積され比較できる価値	表現と鑑賞	表現と鑑賞	—	台紙 ひらがな・カタカナ 変則スタンプ	「み」「ら」「い」の ひらがな・カタカナ パーツスタンプ	B
2021	まる	金シールの部屋	・16mmの丸型の金色シールのみで、部屋の床・壁面を自由に裝飾することができる価値 ・子どもたちの創作した形跡をさっかけに創作することのできる価値 ・子どもたちが描いた作品の集積が徐々にこの空間で行う活動の情報になっていく価値	表現と鑑賞	表現と鑑賞	—	丸型金色シールΦ16mm	壁面へのドットパターンと白紙	B
2022	線	夜空に星座を描こう	・子どもたちの表現した作品の集積が徐々に「星座」になっていく価値	表現と鑑賞	表現と鑑賞	—	蛍光塗料の含まれた 輪ゴム	ブラックライト	A

図1: 共創空間プログラムの子どもに提供した体験価値による類型化

こどものくいの共創空間では、基本的には多彩な素材や描画材を用意し、子どもたちに表現する場を提供した。表現活動は、そもそも自分自身と対話する時間でもあり、すぐ近くに自分の親が存在しているという安心感が「自己内対話能力(自分と向き合う力)」を引き出す要因となっているものと推察する。こどものくいの来場者は不特定多数であるため、特定のグループを運営側であらかじめ組むような仕組みが構築されていない。その場、その時間において、たまたま居合わせた子ども同士で、その状況に応じた立ち振る舞いやコミュニケーションが求められる。例えば、限りある描画材を子どもたち同士で貸し借りする場面や、体験終了後に次の利用者に対する声かけなどがこれに該当する。結果的にこの経験が「他者協働能力(他者とつながる力)」が育成されるものと考えられる。緩やかな緊張関係の中での造形体験では互いの表情や言動を観察し臨機応変な対応が求められるため、より本質的な「他者協働能力」の育成が展望される。さらに、失敗を恐れず何度もチャレンジできるという環境が子どもの「好奇心」や「楽観性」を、非日常的な空間演出を取り入れた環境が子どもの「意欲」や「想像力」をそれぞれ向上させ、「自己啓発能力(自分を高める力)」の育成も期待できる。

以上のように、共創空間プログラムで獲得し得る能力として「自己内対話能力(自分と向き合う力)」、「自己啓発能力(自分を高める力)」、「他者協働能力(他者とつながる力)」であると推定し、共創空間での体験が幼少期の子どもの非認知的能力の向上に影響する可能性が推定された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 川原崎 知洋	4. 巻 33
2. 論文標題 子どもを対象とした共創空間のデザイン -グランシップこどものくに「くねくねびよーん」の実践を通して-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 222-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00029441	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 名倉達也、占部史人、川原崎知洋、芳賀正之	4. 巻 33
2. 論文標題 中学校美術科の教材開発と授業実践 -教科専門からアプローチする附属静岡中学校との連携-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 339-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00029454	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 川原崎知洋	4. 巻 72
2. 論文標題 子どもの共創空間における体験と非認知的能力に関する研究 -グランシップこどものくに「まんまるころころ」の実践を通して-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告. 人文・社会・自然科学篇	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00028508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 川原崎 知洋	4. 巻 54
2. 論文標題 価値発見力の向上を促すプロダクトデザインの鑑賞	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 89~96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19008/uaesj.54.89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川原崎知洋	4. 巻 20
2. 論文標題 こどものくに まんまるころころ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 常葉大学造形学部紀要	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川原崎 知洋	4. 巻 31
2. 論文標題 子どもの共創空間の類型化と非認知的能力の関係について グランシップこどものくにの実践を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 179-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 伊藤文彦・川原崎知洋	4. 発行年 2019年
2. 出版社 静岡大学デザイン研究室	5. 総ページ数 26
3. 書名 De+sign atelier vol.7	

1. 著者名 伊藤文彦・川原崎知洋	4. 発行年 2020年
2. 出版社 静岡大学デザイン研究室	5. 総ページ数 26
3. 書名 De+sign atelier vol.8	

1. 著者名 伊藤文彦・川原崎知洋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 静岡大学デザイン研究室	5. 総ページ数 24
3. 書名 De+sign atelier vol.9	

1. 著者名 伊藤文彦・川原崎知洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 静岡大学デザイン研究室	5. 総ページ数 24
3. 書名 De+sign atelier vol.10	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------